



原発に頼らない社会を！

八戸医療生協1・21「さようなら原発・組合員のつどい」に220名参加

○「福島からの報告」 郡山医療生協 宮田育治専務理事
○「放射能の健康への影響」 生協診療所 竹本照彦所長

さるかどした

八戸医療生活協同組合
〒031-0001
八戸市類家5丁目38-20
発行責任者 内田弘志
TEL0178-71-3456

八戸パークホテルの二〇〇席の会場は満席になりました。一月二十一日、創立二十二年のこの日は、八戸医療生協にとつていのちと健康を守るために原発に頼らない社会の実現をめざすスタートの日となりました。そして、福島のみなさんとの連帯を表明する機会となりました。

あまりに 無防備であった

「福島には原発が一〇基もあるのに、まさか爆発するとは思わなかった。あまりにも無防備であった」と語り始めた宮田専務は、六万人を超える県民が県外へ避難し、一〇万人近い人が県内へ避難している現状をつぶさに報告しました。郡山医療生協で働く六〇名余の職員が転居を考えていることを含めて、生活の変化を余儀なくされている人が六〇%にも及ぶ職員の状況にも触れました。



宮田育治専務理事

子どもたちを 最優先に
原発事故は放射能汚染、被曝との闘い、何よりも子どもを被曝から守ること、保育所の除染などに優先してとりくんだことなど日夜わかつたぬ活動が今も続いているようすを報告しました。

チェルノブイリを視察

宮田専務は昨年十一月、チェルノブイリを視察し、放射能対策など学んできたことを郡山医療生協でも生かしていきたいと決意を述べました。郡山医療生協は今、放射線相談外来を開設するなど放射能対策とともに、脱原発めざして組合員、職員が一体となって取り組みを強めています。

成長期の子どものほど 影響が大きい

子どもたちを 最優先に

最優先に

子どもたちを 最優先に



竹本照彦診療所長



《参加者の 感想から》

◇福島原発事故が起きるまで原発の事にはあまり知識も関心もなく過ごしてきましたが、目に見えない放射能のこわさを知り、今すぐ国内から原発をゼロにしてもらいたいと強く望みます。少し位の不便はがまんします。

◇「私たちは日本国民です。憲法で守られているんです。生命よりお金が大事なのですか」福島の声に胸のつまる思いです。国はどこを見ているのかと、憤りを感じる日々です。

食品汚染の 広がりが心配

竹本先生は、粉ミルクや米、魚をはじめ食品汚染が気がかりであり、私たちが自分で判断する力を持つ必要があると述べました。

◇放射能汚染の処理にほう大な経費と人命と労力を使うことがいかに馬鹿げた浪費だと、野田さん、子どもでも解るのになんできつぱりと止めないのですか。土壌の除染を急いで下さい。

虹のバレンタイン行動で 原発“模擬”国民投票カード配布



二月十五日、三春屋前で役員十九名が参加して虹のバレンタイン行動に取り組みました。チョコといっしょにバレンタインカード「原発“模擬”国民投票」を市民に配り、署名にも取り組みました。寒い中、一〇〇筆の署名が集まりました。



虹の旗

寒い日が続いてますね。こういう時は腰が痛くなります。私は一昨年腰痛の他に左足のしびれと冷感で整形を受診し、挫骨神経痛と言われました。腰を支える筋肉(背筋と腹筋)を鍛えたり、バランスを取る体操をリハビリで教えてもらいながら、薬も飲みました。症状も大変よくなりました。先生に内服薬はいつまで続けるのかと聞くと、暖かくなるまで続けましょうと言われました。そのうち、あの震災が起こり、中断しています。清掃の仕事にはコルセットをやりながら湿布を貼ったり運動を続けています。そのせいか今年の冬もしびれなど、ひどい症状にならずにすんでいます。

七〇代の友人は腰痛のため整形を受診したところ、骨そしやう症と言われ、一人暮らしだし、寒い時期なのでそのまま入院しています。女性は高齢になると骨そしやう症になる確率が高くなります。毎日乳製品を取り、小魚などのカルシウムを多く含む食品を取る事に心がけていますが、それと共に運動が必要と言われています。年齢が高くなると感覚が低下し、つまずいたり、転倒しやすくなります。姿勢を良くすることで重心を支える筋肉を鍛えます。足の指先をちゃんと上げて歩行するなどして、これ以上の体力低下を予防したいと思えます。

(健康づくり委員会 平賀)

診療所休診日

(毎月最後の土曜日)

月	休診日
3月	31日
4月	28日
5月	26日